

- 1 教育事業名 「無人島アドベンチャーキャンプ 2016」
～ 仲間とチャレンジ! 未来の扉を開く 7 Days ‘ ～
- 2 ねらい 何もない無人島で食料の調達から火起こし、調理やテント、トイレ作り等を行いながら、異年齢の仲間と協力し活動していく中で、たくましさ、やさしさ、連帯意識の高揚を図るとともに、何事にも前向きに挑戦する姿勢と忍耐力の育成及び仲間との絆を大切にすることで自己肯定感を高め、主体的に「生きる力」を身につけていくことを目的とする。以上の取組を通して、災害時や傷害時等に対応する能力を身につける事も併せたプログラムとする。
- 3 期 日 平成 28 年 7 月 25 日 (月) ～ 7 月 31 日 (日) 6 泊 7 日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 24 名
- 6 参加人数 24 名
- 7 参加者内訳 小学生 12 名、中学生 12 名 (男性 13 名、女性 11 名)
(県内 21 名、県外 3 名 神奈川県 1 名、静岡県 1 名、愛知県 1 名)
- 8 講師 ・大城敏氏 (パトリングガイド 漕店代表) 森 有紀子氏 (読谷村観光協会)
・山下智郁氏 (アミックス小学校教諭)
・東江宗典氏 (潮花キッズクラブ代表) 高良真知氏 (糸満青少年の家)
・宮良長亨氏 (石垣青少年の家) 伊波兼誠氏 (看護師)
- 9 実施プログラム

月日(曜)	朝食	活動内容					宿泊
		午前	昼食	午後	夕食	日没後	
7月25日(月)		オープニング オリエンテーション	注 弁	ビバーク用テントの作り 方 キャンプ基礎知識講習 危険生物の学習、大型カ ヌー、スノーケルの基礎練習	全 体 炊 事	無人島での生活計画 装備品の確認、準備 ふりかえり	キャン プ場
7月26日(火)	軽 食	大型カヌーで無 人島へ ＜班別活動＞ テント作り、防 災、安全講習	野 外 炊 事	＜班別活動＞ 釣りや貝の漁労講習会 スノーケリング講習	野 外 炊 事	＜班別活動＞ 翌日の活動確認 ふりかえり (班別)	儀志 布
7月27日(水)	野 外 炊 飯	＜班別活動＞ 釣りや貝の漁労	野 外 炊 事	＜班別活動＞ 釣りや貝の漁労	野 外 炊 事	＜班別活動＞ ボンファイヤー	儀志 布
7月28日(木)	野 外 炊 飯	班で計画		班で計画	野 外 炊 事	ペアキャンプ(班別)	
7月29日(金)	野 外 炊 飯	＜全体活動＞ 釣りや貝の漁労	野 外 炊 事	＜班別活動＞ 班で計画	全 体 炊 事	＜全体活動＞ ソロキャンプ(班別)	儀志 布
7月30日(土)	野 外 炊 飯	追い込み漁	野 外 炊 事	パーティー準備・魚調理	全 体 炊 事	分かれ合いの集い	
7月31日(月)	軽 食	かたづけ		ランチ		泊港にて保護者と一 緒に振り返り りかえり	

10 活動の様子



無人島へ向け出発



海の危険生物に注意



ビバーク用テント



みんなで火おこし



木の下で一休み



木の上で就寝中



追い込み漁①



追い込み漁②



追い込み漁③



追い込み漁の釣果



竹竿で魚釣り、釣果は



竹竿釣りの釣果



竹の箸を作成



皆で食べる朝食



ブルーシートで就寝中



朝食の風景



無人島の朝



最後の分かち合い

11 エピソード（アンケート・参加者の感想）

- ・火起こしが上手く出来ない日もあり。少しつらかった。
- ・無人島キャンプで釣りが好きになった。
- ・最初は男女の対立もあったが、最後は皆、仲良くなりました。
- ・ブルーシートの活用法などたくさんことを学んだ。
- ・追い込み漁では、皆と協力して、たくさん魚を捕ったのがうれしかった。
- ・この一週間で、たくさん生きる知恵を学びました。

12 担当者所見

（1）成果

- ・安全対策の指導をより深化させるために、講師の先生から、参加者全員に無人島の地形（危険な場所）や海の海洋状況、そこに生息している危険海洋生物などについて、その対処法などを専門的な立場から、指導助言をして頂いた。
- ・災害時に対応出来るスキルを身につけることを目的とし、防災用トイレの設置と使用方法について講習を行うとともに、一人一枚のブルーシートを携帯させ、寝具や雨よけとして活用する取組を行った。
- ・1週間の無人島生活を通して、命をつなぐ水や火の大切さ、自然の恵みへの感謝、互いに協力し、物事を成し遂げることの大切さなど、多くの事を体験することが出来た。

（2）課題

- ・これまで続けてきた無人島キャンプの内容を再検討し、よりサバイバルに近いプログラムの編成について検討していきたい（サバイバルスキル講習、装備品や食材の精選）
- ・急な天候悪化に備えて、事前に避難場所の整備や確認の徹底を図る必要がある。
- ・出来るだけ、漁労が出来る時間（潮の干満）にあわせた、日程の調整が必要である。
- ・リーダー育成の観点から参加者の年齢制限を小5～高1とし、班リーダーとして、高校生を1名ずつ配置することも検討していく必要がある。